

議 事 録

課 長	補佐兼係長、室長	係長・係

記録者：平原

会議名	令和5年度第2回志布志市中小企業・小規模企業推進会議	No.	
日 時	令和 5 年 10 月 3 日 火曜日 13:30 ～ 15:30		
場 所	志布志市役所志布志庁舎4階 庁議室		
出席者	○ 市商工会)城ヶ崎課長	○ 特産品協会)今別府次長	× 鹿児島大学)石塚教授
	× 大隅地域振興局)山中課長	× 大隅職業安定所)山崎統括	○ 赤田税理士
	○ 青年会議所)上村副理事長	○ 産業支援センター)田中課長	○ 日本政策公庫)濱崎課長
	○ 南日本銀行)満留支店長	○	
	【事務局等】港湾商工課:大迫、平原、児玉、椛島、草野		

内 容
<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長あいさつ 城ヶ崎会長からあいさつ</p> <p>3. 協 議 条例第19条第3項により、城ヶ崎会長が議事進行。</p> <p>(1) 取組事例の紹介</p> <p>①WIN-WINネット業務等の取組説明（満留委員） 2023年3月期時点で、契約済が828社、内575社で93億3900万円の売上向上に寄与 詳細は別紙資料のとおり</p> <p>②事業承継マッチング支援の取組紹介（濱崎委員） 全国で譲渡希望が2694件、譲受希望が6038件で、累計683件の引き渡しまで実施 詳細は別紙資料のとおり</p> <p>(2) 市の中小企業振興施策の見直し等について 提案者から“[様式1]市単独事業に係る見直し等の提言”について説明</p> <p>①志布志市商工会</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業継続設備投資等支援事業の見直し 国・県の補助金等で要件に当てはまらない設備等への補助（更新含）（例：業務用冷蔵庫） ➢ 店舗リフォーム助成事業の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム補助金の要件緩和（例：野立て看板を補助対象へ） ・予算の増額を要望（補助率の低下もやむを得ない。） ➢ 商工業小規模事業承継者対策事業の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・「創業30年以上」等の要件緩和 ➢ 設備やリフォームの補助に関して <ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に店舗の改修等をするだけではなく、売上向上に資する取組や新しい商品を開発する取組などに対して補助する、国の小規模事業持続化補助金のようなものにすべきと考える。そのためには、事業計画書を作成し、それを審査した上で補助金を交付するよ

うにしていく必要がある。

②新大隅青年会議所

- 輸出促進支援・志布志港PR活動事業の見直し
 - ・渡航費及び物価高騰等に伴う補助上限額（20万円）の見直し
- 店舗リフォーム助成事業の見直し
 - ・観光客誘致に向けたリフォームなど、市の方針に沿った取組に対する補助上限額（30万円）の引き上げ。また、設備投資も補助対象に追加。

③観光特産品協会

- 商工業小規模事業承継者対策事業及び商工業開業支援事業の見直し等
 - ・承継事業や開業事業の情報が事業者には十分届いているのか、また出店しやすい環境にあるかどうかの他自治体と比較するなど、検証が必要。

【意見・質疑等】

赤田委員：4ページの事業承継について、業種を製造業等に限定していることと、創業後30年以上にしている意図は何か。

事務局) 長年営まれてきた老舗と言われるような飲食店や製造業を、絶やすことなく引き継いでいくということを目的としており、制約を設けている。

赤田委員：上村委員から提案のあった観光客誘致に向けたリフォームについて、他の業種での想定はあるのか。

上村委員：工場見学はそのニーズがあると思っている。また、もう一つは体験で、お茶屋さんや農家さんの収穫体験も可能性があると思う。

事務局) 補助金の考え方に関しては基本的には二つあり、一つ目は事業者が新たに取り組む最初の段階での支援や規模拡大に対して支援するもの。もう一つは、PRや選んでもらうための補助金であり、例えば志布志港の利用促進を図るために、他の港と競争するといったものがある。先ほど会長からあったように、その効果なり、稼げるといった部分の計画を審査するというのも必要ではないかと感じた。農政では数年後の計画を立て審査し、補助を受けるものがあるので参考にできると思う。

事務局) 店舗リフォーム助成事業の本年度の状況としては、当初予算額300万円に対して330万円を執行している。昨年度は9件の申請があり、屋根の修繕や天井の張り替えなどで、売上向上等は求めている。

(3) 優先して解決すべき課題及び解決策について

提案者から“[様式2] 優先して解決すべき課題及び解決策”について説明

①かごしま産業支援センター

- よろず支援拠点の活用促進
 - ・特産品コンクールの企画及び審査員での活用等
 - ・市補助金の応募資格条件に「鹿児島県よろず支援拠点への個別相談」を追加
 - ・売上向上に関する相談が9割だが、30名のコーディネーターが商品開発からデザイン、販路まで支援できる。
- 副業・兼業人材活用事業の利用促進
 - ・都市部の大企業で働く優秀な人材を活用（月3万円程度で利用可能）

②新大隅青年会議所

➤ 関係人口の増加による地域活性化と商工振興に向けた取り組み

①地域課題解決型のワーケーションプログラムの実施（観光）

○観光資源を活用した産業への助成金設置

- ・沿岸部、空き家、武家屋敷等へのリフォーム助成やチャレンジへの補助等

○観光客誘致に向けた取組への助成金設置

- ・例えば、全国から募集した副業人材数名に市内を回ってもらってもらい、ワークショップをしてアイデアを出してもらおうような取組に対する支援
- ・大崎町のSDGs協議会の理事は、そういった形でリサイクルに目をつけて今大崎町で起業されてる。

②地域課題解決型のワーケーションプログラムの実施（人材活用・育成）

○市内企業の副業人材活用に向けた助成金設置

- ・プラットフォームへの掲載、月々の派遣経費及び本市への旅費に対する補助

○スキルアップに向けたスクール等の開催

- ・市外人材を活用したワーケーションプログラムは有効だが、そこに対応する市内人材をスキルアップするための育成の機会が必要。
- ・自社の企業をどうやってブラッシュアップするのか、新しいビジネスをどうやって考えるのかといった、霧島市のまちづくりのスクールのような取組が必要。

③南九州税理士会

➤ フェリーさんふらわあ・ターミナル周辺における海の駅構想

- ・志布志の魅力を、乗客目線にたつて積極的、能動的にアピールするために海の駅を設ける。
- ・志布志市が目的でなく通過点になっており、サンフラワー乗客への地元企業の販売機会を逃している状況にある。パンフレットを置くだけでは消極的で、海・山の幸を一か所で楽しめる空間が、旅行者の利便性向上にもなる。
- ・敷地を整備し、移動販売車を参集する方法もあり、都城市の図書館周辺の取組が参考としてある。キッチンカーに対する補助を実施している自治体もある。

【意見・質疑等】

城ヶ崎会長：相談件数16726件とあるが、延べの件数か。

田中委員：実際の人数ではなく、延べの人数である。相談のうち9割が売上拡大に関することだが、SNS特にInstagramを活用した売上拡大が非常に多く、インスタからLINEの公式に繋がって、翌日からお客さんが入ってくるといった形で、そこをアドバイスする人間が5、6人いる。

事務局) 人口増を通じた中小企業小規模事業者の振興に関しては、もう少し課を超えた協議が必要と感じた。赤田先生の目的地じゃなく通過点という部分については、観光振興計画で定めていくが、ベイサイド構想や歴史のまちづくり構想において、宿泊・滞在して食事といった部分に対して並行して進めている。

市民が親しむ港づくりとしてみなとオアシスということも検討している。しかしながら、志布志港は産業港であり、安全面には配慮する必要がある。今、県が中心となって港の長期構想検討委員会を立ち上げ、そういったことも進めている。

また、中小企業支援に関しては商工会や市が窓口になるところがあるが、もう少し情報

を整理して対応していきたい。

事務局) 副業人材の活用に関して、国の補助金があるが活用されているか。

田中委員：県においては移動費の半額を補助しているが、それ以外に補助はない。

上村委員：業務委託費用の10%を紹介会社にといったものや、掲載料が1か月10万円かかるといったものがあり、県内の自治体でそこに補助している事例がある。新大隅青年会議所の中でスキルシフトでの活用が新たに3社くらいあり、スキルシフトには市内の商工会などで話をしたいという意向も聞いている。

事務局) 港に関しては、制限が多く営業できない場所もあるが、パークPFIと呼ばれる土地を貸し付け、営業、運営していく制度も活用しながら、取組ができればとみなと振興室としては考えている。そこでキッチンカーイベント等ができれば活性化に繋がっていくと思うが、観光特産品協会や商工会も含めた民間の力が必要不可欠と考える。

上村委員：赤田先生の提案に関しては、港まちであるサンフランシスコで農産物などを販売するファーマーズマーケットがあるが、観光の目玉になると思う。

事務局) 上村委員の観光客増加策に関して、事業者の方々が長年培ってこられた特産品の生産・加工現場が体験の場となり、体験型観光の拠点になると思われる。旅行エージェントのツアー作りも加速するのではないか。リフォーム助成のあり方が変わることで、観光客の増加に直結する事業になると思う。

上村委員：リフォーム助成はニーズがあるのでそれとは切り分けて、何か補助金等があればいいと思う。事業再構築補助金はもうないのか。

城ヶ崎会長：まだある。店舗リフォーム補助金と事業再構築補助金の間くらいの拡充というようなところがいいと考える。

(4) アンケート調査の実施について

事務局：中小企業等の経営課題の把握及び施策づくりのため、今年度アンケート調査を実施する旨説明。

【意見・質疑等】

田中委員：アンケート調査をして、計画を作るのか。また、令和6年度予算に反映させるのか。

事務局) 今のところ計画を作る予定はないが、そういった部分も含めて提案して欲しい。次年度予算への反映については、アンケートの回収・集計までしてからとなると厳しいと思っており、今回提案いただいた内容を検討していき、アンケート結果は次年度の会議で報告し、それを基に提言をいただきたい。

(5) その他

事務局：当会議は当初、年に2、3回程度を計画していたが、多くの意見・提言をいただいたので、今年度は今回を最後とし、アンケート結果等を踏まえて次年度に開催することを提案。

次回は次年度に開催することで了承を得た。

4. その他 なし

5. 閉会